

## ～令和4年6月 データから見た業界の動き～

### 6月報告のポイント

#### 回復基調は堅持しながらもそのテンポは鈍化

#### 人材不足・資材高騰など、より慎重な経営判断が求められる

##### ■ 概 況

6月の県内景況のD.I値は、製造業・非製造業をあわせた全体で売上高+10ポイント（前年同月比+4）、収益状況ポイント▲16（前年同月比±0）、景況感+4ポイント（前年同月比+26）となり、売上高D.I値は、回復基調は堅持しながらもそのテンポは鈍化した。

業種別で製造業は売上高▲10（前年同月比▲5）、収益状況▲40（前年同月比▲15）、景況感▲15（前年同月比+10）となった。

食料品製造業では、人出が増えたことから業務用商品の売上げが増加、電気機械器部品製造業でも半導体製造関連の受注が順調に推移している状況には変わりはない。しかし、原材料価格が前年比20～30%上昇し、売上げの増加率を上回りと収益を圧迫、経営環境は厳しさを増しているとの報告があった。

非製造業では、売上高+23（前年同月比+10）、収益状況±0（前年同月比+10）、景況感+17（前年同月比+37）と製造業とは対照的な結果となった。

型枠工事業では型枠の主要材料が前年価格の2倍に跳ね上がり価格が下がる見通しすら立たないという状況。ジュエリー卸売業でも地金やダイヤ、色石などの輸入品が高騰し、販売価格の上昇による買い控えや、利益率の低下を懸念するなど原材料価格高騰の影響を大きく受けている。

一方、食肉小売業からは「コロナ前の水準に回復してきている取引先がある」、宿泊業からは「週末は満室の組合員施設もあるなど稼働率は高いまま推移している」、警備業でも「交通誘導・施設・イベント等需要が増加している」など、多くの事業者が人流が戻り経済活動の活発化を実感している様子が伺えた。

今回の調査結果では、製造業はD.I値の全項目でマイナスを示し、先月比で見ても大きく数値を下げている一方、非製造業では全項目でプラスを示し、先月比数値は大きく上昇、全体のD.I値を引き上げた。原油・原材料価格高騰はほとんどの業種に同じように影響を与えているが、人流の回復を直に実感できる非製造業の景況感は悪くない。そのことを裏付けるように、非製造業からは需要の増加による人手不足を訴える声が多く聞かれた。

ある信用調査会社の調査の結果、今年度に設備投資を行う予定の企業の内、IT関連といったデジタルへの投資を考えているとの回答が3割以上となったことから、中央会では月次景況調査対象企業50社に対し、設備投資の計画・予定とその目的について調査し、44社より回答を得た。

回答の内20%が「設備投資の予定がある」と回答し、そのうちの4割強が「省力化・合理化・人材不足への対策」を目的と回答、次に多かった「需要増への対応」と「新商品・事業転換への対応」はそれぞれ2割となった。（複数回答可）

感染症の影響によりこれまで停滞していた経済が一転、一気に動き出し、多くの事業者が人材を充足させる必要性を感じ始めたが、不安定な経済状況が依然続き今後の予測が難しいことからIT化の推進や業務の効率化と併せ、人材不足への対策としての設備投資を考えていることが伺える結果となった。

ただし第7波の感染拡大が急激に進んでおり、経営者にはいままでもより一層慎重な経営判断が求められている。中央会では山梨県の事業を活用し、経営状況診断に専門家を活用する補助事業を新たに用意をしている。

■ 業界からのコメント (業界ごとの詳細は、以下のコメントを参照)

● 製造業

<p>食料品 (水産物加工業)</p>	<p>人流が増加傾向に転じたことから、ホテル・旅館や居酒屋向けの業務用は好調、ギフト関連商品も好調であったことから、売上げは前年同月比129%とコロナ前の水準に回復した。原油、原料高騰が収益状況回復の足を引っ張っている。</p>
<p>食料品 (洋菓子製造業)</p>	<p>巣ごもり需要は一服感があるが、一部の組合員では店舗拡大効果や猛暑の影響により冷夏が好調、売上げは前年同月比113%と、増収が続いている。</p>
<p>食料品 (パン・菓子製造業)</p>	<p>インフレ、円安、原油高等の影響により、原材料や包材、運賃等が高騰している。商品の値上げ等に取り組んでいるが、非常に厳しい経営状況が続いている。</p>
<p>食料品 (酒類製造業)</p>	<p>大きな変化はない。イベント等のリアル開催を検討しているので、秋に向けて感染者数の動向を注視している。</p>
<p>繊維・同製品 (織物)</p>	<p>傘地部門は前月からの受注数量を生産、裏地部門では前月に続き受注があるが、国内工場の火災の影響から原糸の流通量が減少し入荷が間に合わず休機を余儀なくされている。インテリア部門は受注はあるが量的には少なく、今後に向けて試織をしている状況。ネクタイ部門ではクールビズの時期に入り受注量が少ないことや今後の見通しが不透明であることから、織機を停止させている状態である。</p>
<p>木材・木製品製造</p>	<p>前年同月に比べ売上げは▲17%となり、ウッドショックと物価高騰の影響から住宅着工の様子見の状況にあると感じている。今後さらに売上げが落ち込むと考えている。</p>
<p>窯業・土石 (砂利)</p>	<p>前年同月と比べ売上げは約▲10%となった。各地域ごとに差はあるが、全体的に工事量が減少したと感じている。</p>
<p>窯業・土石 (山砕石)</p>	<p>公共工事の減少に伴う売上減少は予測可能であるが、今起きている燃料の高騰はすべての生産活動に悪影響を及ぼしており、生産すれば赤字になる。負のスパイラルを抜け出す方法は単価アップであるが、その手法と今回限りの対応で乗り切れる状況ではないと感じているため行動に移せない。今後はリニア中央新幹線関連工事の需要が見込まれるが、組合員のほとんどが設備投資を考える余裕はないと感じている。</p>

<p>鉄鋼・金属 (金属製品製造業)</p>	<p>前年同月に比べ売上げは▲5%となった。原材料が不足し高騰していることと円安の影響が主であるが、世界的なコンテナ不足により自動車部品関連の受注状況は悪い。</p>
<p>一般機器 (業務用機械器具製造業)</p>	<p>受注量は回復傾向にあるが、物価高騰により原価が収益を圧迫し大変厳しい状況。毎月のように原材料価格が上昇するため価格への転嫁が難しい。</p>
<p>一般機器 (生産用機械器具製造業)</p>	<p>前年同月に比べ売上げは57%程増加したが、前年の売上高が低すぎたことが原因。海外から輸入している材料費の値上げと円安のダブルパンチによる影響で資金繰りが悪化している。仕事量の確保はできているが、今後の見通しは依然不透明である。</p>
<p>電気機器 (電気機械部品加工業)</p>	<p>前年分の納品遅れが整理されたことで売上げは確保できたが、再び半導体が不足し半完成品が増加した。</p>
<p>電気機器 (電気機械部品加工業)</p>	<p>前年同月と比べ売上げは15%程増加したが、収益は▲10%となった。半導体製造関係の受注量は概ね順調に推移しているが、光測定器関係の一部に受注量の落ち込みが見られる。原材料価格が前年に比べ20~30%上昇しており、売上げが増加しても収益の増加に繋がらない。</p>

● 非製造業

<p>卸売 (自動車中古部品)</p>	<p>相場が高水準を保っていた中古車部品の買取価格が前月より下降傾向にある。市場を注視しているが今後もまだ低下する可能性があり不安材料となっている。廃車発生台数がとにかく少ない状況で景況感を悪くしている。</p>
<p>卸売 (ジュエリー)</p>	<p>行動規制の緩和により、店頭、催事ともに客足は戻りつつあるが、インバウンドはまだ戻っておらず、市場はまだまだ厳しい状況である。又、コロナ前は海外展示会出展など輸出が好調であったが、未だに渡航に制限があり輸出量は激減している。円安の影響を受け、地金やダイヤ、色石などの輸入品が高騰し、コスト増により今後は販売価格の上昇、利益率の低下を懸念している。小売りや卸しなどで今まで在庫を圧縮していた分、年末商戦への企画などが戻りつつあり、商品の流通量が増加傾向にあると感じている。</p>
<p>小売 (青果)</p>	<p>原材料や包材、燃料等の高騰が収益を圧迫している。7月のお中元商戦や桃、ぶどうの売上げに期待をしている。</p>

<p>小 売 (食 肉)</p>	<p>新規感染者数が下げ止まりになっているが、行動規制の緩和により夏休みはホテル・旅館の稼働がコロナ前の水準にまで回復してきている。ウクライナ情勢の影響による船舶の遅延、円安、原油価格の値上がり、現地の賃金高騰など複合的な要因から今後も肉の価格高騰や入荷の遅延が予想される。</p>
<p>小 売 (電気機械器具小売業)</p>	<p>前年同月と比べ売上げは▲10%となった。6月の猛暑により例年よりエアコン需要が早まっているが、半導体不足・中国のロックダウン等の影響により品薄状況が続く、取付けできない状況が続いている。商品別でみると冷蔵庫の販売数が例年を上回っている。</p>
<p>小 売 (ガソリン)</p>	<p>ドバイの原油価格が高水準で推移している。為替も円安の状態が続いているため、国の燃料油価格激変緩和対策事業の元売会社への補助金が6月第3週には41.4円/ℓに達している。補助金がなければガソリン価格200円/ℓ超えとなるところだが、175円前後に抑えられている。しかし消費者の節約志向により販売数量は前年対比で減少、又仕入れ価格が上昇していることから資金繰りが懸念される。</p>
<p>商 店 街</p>	<p>組合が管理する駐車場の売上げは増加、組合員店舗の売上げはほぼ横ばいとなり、少し落ち着いてきたと感じている。しかしどちらもコロナ前の水準には戻っていない。今後はどのような企画やセールができるか検討することが重要であり、売上げ回復のための取り組みが必要であると考えている。</p>
<p>宿 泊 業</p>	<p>5月に続き、平日のビジネス客、週末の観光客ともに多く来県している。週末は満室の組合員施設もあり、稼働率の高いまま推移している。一方、多くの施設で混雑時の人手不足が発生し、求人を出しても採用まで至らず、人員不足が問題となってきている。</p>
<p>美 容 業</p>	<p>原材料が高騰しているため、経費削減の観点から在庫管理に重点を置いている。</p>
<p>警 備 業</p>	<p>建設工事での交通誘導・施設・イベント等、各種警備業務に対する需要は増加しているものの、人出不足が原因で人数制限や受注制限を余儀なくされる状況である。この点が解消されさえすれば、景気状況はさらに好転するものと見込んでいる。</p>
<p>建 設 業 (総 合)</p>	<p>公共工事では、前年同月に比べ件数は▲1.9%となったものの、請負金額では24%の増加となった。6月末累計でも件数は▲3.8%であるが、請負金額では3.4%の増加となった。</p>

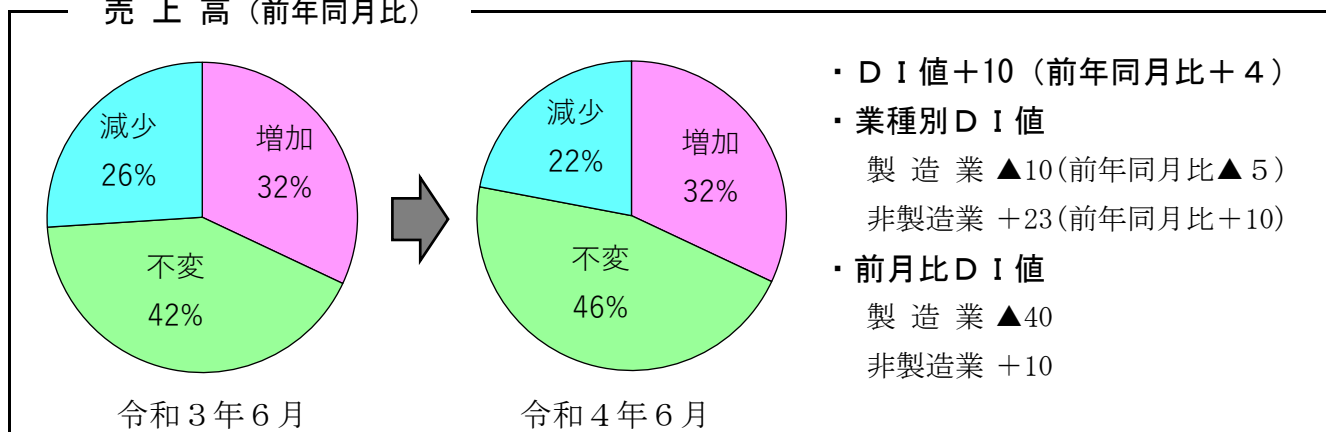
<p>建設業 (型 枠)</p>	<p>この1年間建材の高騰が止まらない。型枠の主要材料である型枠合板は前年価格の2倍となり、その他の材料も50%以上値上がりしている。型枠合板は主に東南アジアで生産するため、感染症による工場閉鎖や森林伐採の問題、また輸送燃料や人件費の高騰により価格が落ち着く時期が不明なうえ、材料は入荷せず、仕事はあっても請負金額も上がらない現状が非常に苦しい。</p>
<p>建設業 (鉄 構)</p>	<p>鋼材価格の上昇は昨年ほどの激しさはないものの、依然として値上げに関しては不可避な状態が続いている。材料価格の値上げのテンポが早いため製品価格への反映が出来ず、工場内作業で採算を調整している現状である。また、組合員からは人員不足という言葉が出始めている。</p>
<p>運 輸 (トラック)</p>	<p>前年同月と比べ売上げは10%程増加したが、収益は▲5%となった。荷主別の売上げは減少傾向にあるが、荷主の数を増やすなどで売上げアップを図っている。人材確保については5月に改正された道交法により19歳から大型免許が取得できるようになったことを受け、今後は若年ドライバーの入社が期待できるが、現状は依然として厳しい状況。燃料の高騰が止まらず、経営を圧迫してきている。燃料の元売りへの補助金だけでは価格を抑えきれない状況であり、ガソリン税・軽油引取税などの一時凍結など国からの支援を強く要望する。</p>

■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

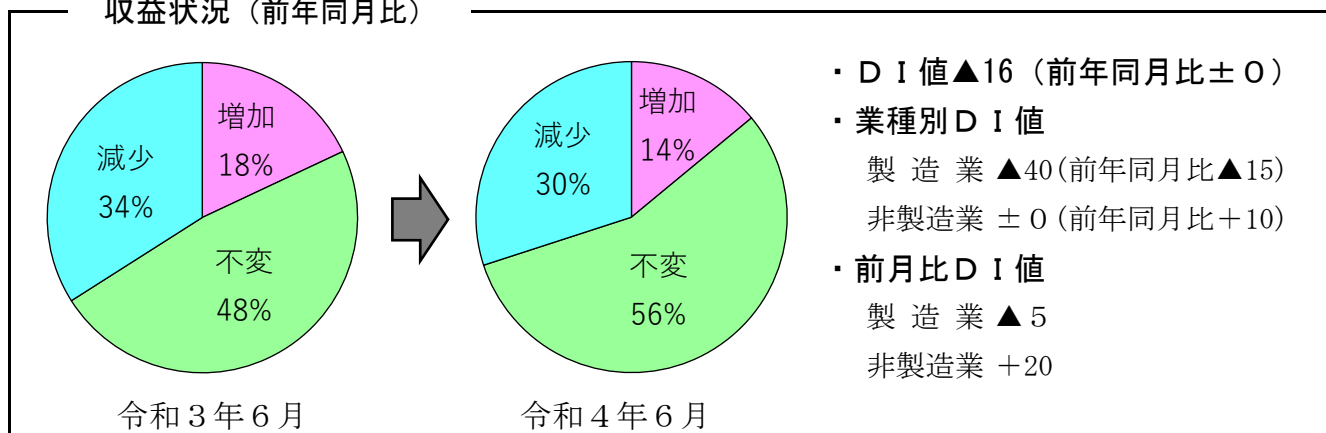
対前年・前月・当月	製 造 業			非 製 造 業			合 計		
	2021/6	2022/5	2022/6	2021/6	2022/5	2022/6	2021/6	2022/5	2022/6
売 上 高	-5	30	-10	13	13	23	6	20	10
収 益 状 況	-25	-35	-40	-10	-20	0	-16	-26	-16
景 況 感	-25	-5	-15	-20	-13	17	-22	-6	4

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D. I 値

売 上 高 (前年同月比)



収 益 状 況 (前年同月比)



景 況 感 (前年同月比)

